

第3回伊賀市都市マスタープラン策定委員会 議事録

- 1 開催日 令和2年10月29日(木)
- 2 開催時刻 午後 13時30分
- 3 閉会時刻 午後 15時30分
- 4 開催場所 ゆめぽりすセンター 2階 大会議室
- 5 議事
 1. あいさつ
 2. 議事
 - (1) 市民アンケートからみた都市づくりの課題について(報告)
 - (2) 攻めの取組の可能性について
 - (3) 守りの取組について
 - (4) 都市マスタープランの課題について
 3. スケジュール、意見の聴取について
 4. その他
- 6 出席委員 浦山委員長、坂本委員、中島委員、奥澤委員、村上委員、松永委員、福地委員、西口委員、森西委員、吉田委員、松本委員、滝井委員、窪田委員、谷委員、大森委員、森本委員、
- 7 欠席委員 大田委員、平井委員、井久保委員
- 8 事務局 山本 建設部長、山本 建設部次長、小西 建設部次長兼企業用地整備課長、川部 都市計画課長、葛原 都市計画課開発指導室長、深尾 都市計画課公園景観管理係主幹、中林 都市計画課公園景観管理係主任、中森 都市計画課開発指導室主査、福岡 都市計画課公園景観管理係
- 9 傍聴者 0名

午後 13時30分開会

議事開始

1. あいさつ

(市長)皆様、ご参集賜りありがとうございます。コロナ渦では、社会の仕組み、価値観、生き方の大きな転換を迫られているところであります。伊賀市の面積は558km²、約65%が森林であって、なおかつ、都心と山村、農村というようなバラエティに富んだ地域構成となっています。また、淀川最上流にあって、人的交流あるいは経済的交流等々、交流圏としては京阪神圏の一翼を担う地域というところでございます。コロナ渦の中、社会の変革がスピード感をもって行われるようになりました。国のほうではデジタル庁をつくり、デジタルトランスフォーメーション、今までとは違った伝達のあり方、行政と行政、地域と地域を結ぶこのようなあり方も激変をしてきているところであります。そうしたことも踏まえ

まして、アンケートを取らせていただきましたし、今後も持続可能な、20年、30年、40年、50年の先を見据えたプランをご審議いただければと思っております。今日は宜しくお願い致します。

2. 議事

(事務局) パワーポイント資料について説明(略)

(委員長) 事項書の1)から4)のポイントについて、今から議論しなければなりません。結構難物だと思っています。細かい質問がいろいろあるのかもしれませんが、1)から4)の議論を進める中で質問をしていただきたいと思っております。今私たちは都市計画マスタープランについて議論しようとしていますが、今日のスライドで見ていただいたのは、道路や公園を作る都市計画に限定しないで、私達の暮らしや生業を考えながら、それをうまくサポートできるような都市づくりをしていこうという大きな流れで、今日発表されたと思っております。アンケートの報告ですが、地域の人達は、暮らす上でどのような環境を評価して、どのようなことを問題にしているのかということが整理されています。P23、P24 ページは、各地域の暮らしぶり、その中で出てくる強み(いいところ)、弱み(課題)が整理されています。弱みというところを見ると、伊賀地域をみると、③公共交通、⑤高齢者福祉施設というのが問題となっておりますが、阿山、島ヶ原、大山田、青山も同じ公共交通、高齢者施設、あるいは医療関係を問題だと思われているようです。また、P25、P26を見ると、暮らしている時に、施設利用する時に、地域拠点を活用しているのか、上野の都市拠点を利用しているのか、市外を利用しているのかということが整理されています。上野地域では半分以上の人がいろいろな施設利用をされていますが、他の地域は内科と金融機関は地域拠点を利用しているがそれ以外はあまり利用していないという実態があるようです。地域拠点のニーズはいろいろあるようですが、現状では内科・クリニックと金融機関しか頼りになっていないという状況があるようです。これをみていただいて、それぞれの地域の方から、アンケートに示された実態で間違いのないのか、あるいは、それぞれの地域・拠点をどのように整備していったらいいのかということで、実態や問題を踏まえて、ご意見をうかがいたいと思っております。

(委員) 島ヶ原地域では、支所廃止の問題でアンケートを取った。その中で拠点となる場所がないと、今後生活が保障できない。福祉関係の施設など最低限地域の拠点となるようなところが必要という大きな願いを持っている。先程の説明で、「スポーツのできる大きな公園の利用のしやすさ」が弱みとなっているが、これに違和感を持っている。アンケートが62人の配布で26名しか回答がなかったということで、4割弱の回答でアンケートの信頼性も問題を感じている。

(委員長) 人口割合で配布・回収しているのだから、島ヶ原の配布数は少ない。これで島ヶ原のニーズが捉えられているのか、多少誤差はあるがニーズがすくい切

れていない問題があるのかもしれませんが。ただし、大きく見るとこの調査結果でそれほど違和感はないでしょうか。地域拠点は維持しなければいけないというニーズはあるというふうに理解できると思います。

(事務局) アンケート調査については、人口按分による配布数で実施させていただきました。50%の回収率を超える地域はありませんが、3分の1以上回答があるという部分で、ある程度の成果はあると考えている。ただし、これはアンケート調査結果の集計だけで、今後は地域に入って地域の課題、強み、弱みという部分について議論していただくことを考えています。アンケート結果そのものはダメということではなく、参考にしながら進めていきたいと考えています。

(委員長) 議事3のスケジュールで議論になるとと思いますが、今日の議論の成果、あるいはアンケートの成果・内容をわかりやすく整理していただいて、それを地域の中でもう一度議論していただくということを考えておられるようです。今日、このアンケート結果で決まったというものではなく、重要な問題が拾えているのかどうかというのは、今後さらに地域で議論していただく機会はあると思います。

(委員) 今後議論の場を設けていただくことはありがたい。せっかくアンケートを取っていただいたので、これをベースに考えていただいて、施策に反映してほしと思う。

(委員長) スライド番号4と5を見ていただくと、現在の都市マスタープランが何を宿題として作られて、あるいは、伊賀市の中をどのような都市構造のまちづくりを進め行くのかという整理がしてあります。5ページをみていただくと、中心部だけではなく、合併した町村部も生活や生業が維持できるように、地域拠点を配置して、上野の買物に行くまでもなく、それぞれの地域で一定の生活ニーズが対応できるようにいくつかの拠点を設定するというマスタープランになっています。スライド番号49を見ていただくと、新市役所周辺の新しい拠点が含まれていますが、それ以外のところについては、地域拠点は維持する、そこでの生活を支える機能は維持していくという前提で考えられているようです。現状を踏まえて、これからの人口減少や産業の変化の中で、さらに暮らしの生業が維持できるように、どのように地域づくりをしていくのかというのが、これから考える都市計画マスタープランの話題になると思います。その前提として、それぞれの地域に住んでいる人のニーズをアンケートで捉えたということです。

(委員) 資料5ページの副次的拠点がよくわかっていない。どのようなイメージで副次的拠点となっているのかというのを教えてほしい。資料22ページにサンプルの基準の文章の意味が飲み込めていない。資料36ページの3つのキーワードは、総合計画に入っているのか、この会議で出てきたキーワードなのか。資料40ページの攻めの取組のなかで、「可能性1：阿山道の駅を中心にした知的対

流拠点づくり」とあるが、阿山道の駅が知的対流拠点とは考えにくいのでこの意味を教えてください。

(委員長)最後の質問は、議事2)、3)の話題になりますので、後回しにしていただいて、副次的拠点についてと、アンケート調査方法について、3つのキーワードについての質問について事務局から説明いただけますか。

(事務局)副次的拠点は、現行マスタープランに掲げているものです。広域的拠点は上野の市街地部分に位置付けをしまして、支所周辺につきましては地域拠点を位置付けています。副次的拠点というのは、広域的拠点と地域拠点を結ぶ、広域的拠点を補完するような拠点的イメージです。新たなまちとしてゆめが丘の住宅と企業用地の働く場が整備され、文化的施設、交流的施設をつくっていくというイメージの中で、広域的拠点を補っていく拠点的としてこのエリアを位置付けています。用途地域も指定しています。

(委員)市民アンケート調査結果の17ページに「南部の整備は不要」とあるが、これは副次的拠点のことを指すのか。

(事務局)市民アンケート調査結果の17ページの「南部」というのは、市役所が移転して四十九駅ができた地域を上野南部区域とし、アンケートを実施しています。したがって、ゆめが丘を指しているわけではありません。

(委員長)副次的拠点は、機能としてはどのようなものを充実するという位置付けをイメージしたらよいですか。先程の説明では住宅団地と工業団地があるから、伊賀市全体における住宅と産業の機能を充実させ、伊賀市全体にとっての役割を果たすので地域拠点ではなく、少し違った名前でも副次的拠点とネーミングしたという理解でよろしいでしょうか。

(事務局)副次的拠点というのは、広域的拠点を補完し、特に生産機能、研究機能等、産業系機能の拠点的となる地域という位置づけをしています。アンケート調査のサンプル数の基準は、統計上、2,500人の配布数の結果、384のサンプル数があれば95%の信頼度、5%の誤差になります。統計上の話になりますので、この結果が全てを反映しているというものではありません。3つのキーワードについては、国、県、市総合計画の説明を割愛させていただいた中で、いろいろな要素を合わせて総合的に検討したフレーズということで考えていただけたらと思います。事務局で考えたフレーズです。

(委員長)地方都市伊賀の魅力を出して、出ていかないで転入していただく。そのためには魅力づくりを出さなければいけないという分析があったと思いますが、そのために豊かに暮らせる、伊賀の魅力を出す、産業、観光、農林業が低調だから新しい仕事づくりを起こす、このような分析から出てきた言葉であると思われまします。分析を踏まえたキーワードになっているが、これでよろしいかということをお皆さんで議論をしていただければと思います。アンケートの結果につ

いては、今後、地域で煮詰めていただくということによろしいでしょうか。このアンケートは、今回は市民を対象に行っていますが、市外からみて、旧上野の市街地についてどのような期待がありますか。市民が旧上野に期待していることと、市外の南山城が期待しているところとズれていないでしょうか。

(委員) 各地域から出ている問題点については、生活実感からこのような感じであると見ていた。南山城村では、地域の有償運送を実験で行っており、来年の1月から今の運用を続けていく予定である。伊賀への路線を伊賀市と協力してつくりたいという要望が強くある。一般の交通と有償運送で買い物ができないということで役員が困っているの、それについても、この場所でないかもしれないが、各地域が抱えている交通の問題と一緒に、隣接地区として共有できたらと思う。実感としては、南山城村でも同じような問題が出てくると思う。

病院については、岡波病院や伊賀市民病院に、伊賀市民と同じように利用しているの、これに交通がうまくリンクすれば、住みやすくなるという実感は出てくる。

(委員長) 地域拠点に対してこうあってほしいというニーズはいろいろあると思うが、実際に地域拠点で享受できているサービスは、クリニックと金融機関のみとなっています。伊賀地域はスーパーがありますが、この実情を踏まえると、地域拠点は頼りにならないということなのか、期待はしているが機能が不十分なので地域外に行かざるを得ないのか、そのあたりどのような感じでしょうか。

(委員) これらの施策は、中心部から見た施策としか見ることができない。それぞれの地域では、地域完結型の地域づくりをやっていこうということで取り組んでいる。伊賀地域は、スーパーもあり、名阪道路や鉄道も通っており不便はないが。産業は頼らざるを得ない。少子化が進んでいるが、学校を統合する必要はない。それぞれの学校については教育の分野で考えてもらえばよい。地域拠点は絶対に必要と思っている。地域の拠点を絞るという話が出ているが、あまり絞ってしまうと、それぞれの地域の生活や文化がなくなってしまうという懸念があるので、各支所に地域拠点は必要と思う。公共交通については、地域内を通る交通について取り組んできたが、もっと考えるべきだと考えている。子供や高齢者など、車で移動できない方をどのように移動させる手段を作っていくかということも地域の問題と思う。農業についても、後継者を定着させてこの地域の農業を推進していくのかという問題がある。医療については、開業医があり、市民病院も岡波病院もあり、時にはヘリコプターも飛んでいくので、安心して暮らしをしているところである。福祉については、地域福祉計画をつくって、それぞれの地域でどのように福祉を進めていくのか、発展をさせていくのかという議論をしているので、できたらその方面からの意見も聞かしていただく中で、マスタープランを検討してほしい。いまのところ伊賀地域の不便は感じないが、免許証の返納した場合、高齢者として不便なところも出てくるのはと思う。

(委員長) 各地域、公共交通への期待はかなり高いですが、資料 11 ページをみると、乗降客数は鉄道もバスも減少しているため、公共交通システムの見直しが必要と記載されています。私は、コミュニティバスは走る公共施設と思っていますが、利用者が減って持ち出しが多くなると、掻い摘まなければいけない、見直しというのはそういう議論になりそうな気がします。公共交通システムの見直しというのは、地域の人はどうのように理解したらよろしいでしょうか。

(事務局) 公共交通については、交通政策課で地域公共交通網形成計画を見直しており、伊賀鉄道や行政バスの乗降客の減少の情報はいただいています。ただし、自家用車の普及の中で、車を運転できる人には不便を感じていない方がおられると思います。交通弱者の立場にたってみると公共交通は弱い。今は不便ではないが重要度としては高いというイメージを持っています。このような状況を踏まえて交通政策課で地域公共交通網形成計画の見直しが行われていくものと考えています。

(委員長) 縮小の方向で考えているのか、維持する努力をしていただくということで地域の方は考えていいのか、考える材料を提供していただければと思います。

(委員) 地域公共交通網形成計画は改訂作業中である。今年中に改訂して 6 年間の計画になる。今までの公共交通だけで地域の交通を担うということではなく、福祉輸送バスや通学バスなどの他の交通を含めて、全体の地域公共交通をどのようにするかということを見直している。その中で本当に必要な公共交通は何かということを見直している。システムの見直しがどのようなものかわからない部分がある。そこは検討する必要があると思っていますので、地域公共交通網形成計画を踏まえて見直しをしていただければと思う。

(委員長) 地域の方に議論していただく材料の中に、地域公共交通網形成計画のポイントも提供していただければと思います。

(委員) 先日、伊賀地域で公共交通網の会議があり、私は道路網の整備を課題としてあげた。交通弱者でも自分の力で病院や買い物に行けるようにしたいということになれば、自転車に乗っていくことはできる。では、どうしたらよいかというと、そのような道路を作ることは大変なことだと思う。自転車専用道路や歩道が広く歩行者と自転車が一緒に移動できる道路は外国では整備されている。自分の力で目的を達成できるような地域をつくっていくことで、人にやさしい地域になる。その上で公共交通をしっかりと整備していく必要がある。市長が自助、共助、公助と言っていたが、本当は公助がしっかりできた中で、自分達でしっかりやるようなところに対して、行政の施策を進めるべきだと思う。伊賀地域では、ある企業と歩道にカラー舗装をして、通学路、歩道の区別をした地域づくりに取り組んでいる。伊賀市全体がやさしい交通体系ができたらい

と思っているので、このようなことを計画に取り入れていただきたい。

(委員長) 1) の議事については、新たな資料を提供し地域で議論していただくということにさせていただきます。次に、2) の攻めの取組ですが、資料 10 ページを見ていただくと、製造業以外の産業は苦戦をしている、人口を維持するためには仕事づくりをしなければいけないという話がありました。それを踏まえて、新たな仕事づくり、生業起こしをしないといけないという切り口で紹介がありました。資料 40 ページに、地域の活動を見ながら事務局で火種がありそうな 5 つの可能性が掲げられています。それぞれの地域の方が、これは可能性があるから都市計画でサポートしてほしいという視点で取組みのご紹介をお願いします。また、このようなことをテコ入れすればモノになるというお話をしていただければと思います。その前に、阿山道の駅がなぜ知的対流拠点なのかという質問がありましたが、この知的対流拠点のイメージが湧くように、説明をしていただいてご意見をいただきたいと思います。

(事務局) 阿山道の駅では、地元産物の販売、幹線道路の交通量が多く寄ってもらう方も多い、隣接して B & G があるなど、広く一体で見て観光産業のイメージで、そこに生業や仕事があり、拠点の可能性があるのでないかということであげさせていただいている。

(委員長) 例えば、可能性 4 ですが、このようなところで農産品の 6 次産業化の可能性のある取組みがあるのでしょうか。土地利用として開発を抑制する土地利用基本計画になっているところを、このような取組みをするのであれば、保全型ではなく活用型の土地利用計画に見直していく、そういう形で都市計画がサポートすることは可能と思います。資源としては農林業であるが、それを活用する取組みはありますか。

(委員) この図を見て島ヶ原が外れているのは残念に思う。高齢化や人口減少は進んでいるが、地域の中でがんばろうという気持ちはある。勉強もし仲間とともに考えていこうという雰囲気もあるので、その芽を潰してほしくない。昨日も酒をブランド化していきたいという構想を練っているが、人、もの、金を支援していただかなければできない。支所がなくなったらホテルにしたいなどのアイデアはいろいろ持っている。

(委員長) 私からは、新しい取組みを出してほしいと言ったのですが、島ヶ原地域からは今取り組んでいることを大切に育ててほしいということだったので、地域に戻って、都市マスタープランに位置付けてほしいというものがあればご提案いただければと思います。

(委員) 山村野原風景、水、太陽、風といった地域の資源を有効活用したものを盛り込んでいただけたらと思う。

(委員長) 森林地域全域で有効活用するのは大変なので、この辺りで活用できる

ようなプロジェクトがあり得るなど、いくつか拾い出していただくと絵が描きやすいと思う。まだソフトな活動をしている段階で場所が決まっていなければ、そのようなご提案でもよいし、活用するにはこの場所しかないというものがあれば、具体的な場所をご提案いただくのもあるかもしれません。

(委員) 資料を見て、感じたことが2点ある。資料40ページではエリアごとに拠点づくりをしようということだが、伊賀市で計画されているインフラがここに含まれているのか。例えば、名神と名阪の接続道路、リニア、関西本線の電化など、こういったインフラを考慮して将来を見越した中で検討されているのか。それから、もう1点は、守りの取組について、人口減少だからこうしていこうというのが中心の議論になっていると思うが、どうやって外から人に来てもらうかの議論が大事ではないかと思う。

(委員長) 2点目については、3)で議論していただきたいと思います。資料40ページの丸で囲んでいるゾーンは、既存のインフラが中心で新しいインフラ等を踏まえて考えられているのかというご質問ですが、どのように考えたらいいでしょうか。

(事務局) リニアに関しては、計画が若干ズレてきているということと、名古屋から西のルートの構想はご承知と思いますが、三重県のどこを通りどこに駅ができるのかは議論までに至っていない状況です。したがって、伊賀市都市マスタープランの中では、リニアに関しては含まれていません。名神名阪連絡道については、現実性があると思いますので、阿山道の駅を中心とした拠点については、伊賀地域の部分を抱きかかえながら拠点づくりを検討していく必要があるのではないかと思います。攻めの取組のねらいというのは、人口減少の中で新たな産業を起こすことによって、人口減少を抑えて新しい物を作っていこうという目的を考えています。このような可能性があるところを、地域の皆さんや関係団体の方々と協力しながら、魅力のある攻めの取組を考えていきたいと思っています。

(委員) 資料の40ページでは、農業の6次産業化や阿山道の駅周辺の拠点化が示されているが、農業に関しては、どの地域が特化しているということではない。特に旧上野市街地の部分では観光や商業などいろいろな部分が加味されているが、農業については周辺に広く分散しており、その中で仕事の創生という部分であれば新規就業者への取組も必要である。図のエリアだけが6次産業化になるのではなく、大山田など他の地域でも6次産業化に取り組んでいるところもある。農業は地域を限定するのは難しいので、仕事の創生の部分で取り組みをしていただければ、今後少し足を踏み入れた内容を提示していただければと思う。農業は、後継者、高齢化等で、どこの地区も問題になっているので、少しでも光の当たる、さらなる希望が持てるような、6次産業化だけが希望の光に

なるというものではない方向で施策を提示してほしい。

(事務局) 今までの都市計画は、市街化を進めるところと、市街化を抑制して農林業をお助けしようというところを区分していました。今はそうではなくて、全体的な考え方として、土地利用の観点から、農業に必要な施設があれば拠点として誘導していくことは必要ではないかと考えている。

(委員長) 都市マスの中で、第1ステップでは人を育てる、地域を育てるというソフト対応で、徐々に形が見えてきたら、第2ステップでどこに施設を配置するという取り組みが組み込まれると、農政とリンクした都市マスになるのかもかもしれない。

(委員) 阿山道の駅を中心にした知的対流拠点は、市としてどのような考えがあるのか。そこには道の駅、ふるさとの森などがあり、周辺は国有林である。国有林をどのように活用しようとしているのか、市としての考え方を聞かせていただきたい。私は伊賀栗プロジェクトの参加しており、栗を農業者が栽培して、福祉関係の人に栗の皮をむいていただいて、それをペーストして市内のお菓子屋に商品として出している。これは、岐阜県恵那市が地域ブランドづくりをすることで、恵那の業者の話聞きながら取り組みをしている。地域ブランドづくり取り組みを進めていければと思っている。ソーラーシェアリングが広まってきているが、ソーラーパネルの下で農作物を作る、そこで起こした電気については、農業の設備や地域に電力を使っただけという、地域が協力したソーラーシェアリング、下で作物を作り、できた電気はその地域に供給する、このようなシステムを伊賀市でもしていくべきだと思う。

(委員長) いくつかの提案をいただいたので、それが都市マスにどのように組み込めるのかは検討していただこうと思います。阿山道の駅周辺は国有林なので、これ以上の開発はできないのではないかとのご発言があったのですが、阿山道の駅を中心にした知的対流拠点というのは広大な面積の土地利用転換をするようなイメージで考えているのでしょうか。

(委員) 阿山のこの地区は、道の駅、ふるさとの森、B & Gの体育館が比較的狭い範囲に立地している中で、施設使用がバラバラで有効活用されていない傾向がある。道の駅も一定の来客者はある。この場所は名阪の壬生野ICと新名神の甲南ICの中間にあり、便利な場所でモクモクファームにも近い。今ある施設を中心に民間の活力を利用して行う事業を、阿山支所を中心に考えている。交流拠点になることは間違いないことで、今考えているのはスポーツ・レクリエーション施設としてスポーツ合宿をお願いするような施設を想定している。

(委員長) 攻めの取組については、資料40ページを見ていただきながら、可能性のある取組みや具体的な場所などを各地域からご提案いただければと思います。守りの取組ですが、何もしなければ日本の人口は減少していく、それも少し

テコ入れしたくらいでは、何ともならないくらい減少しそうです。人口減少、高齢化を踏まえると、青山の高尾地区は人口減少がかなり進み 2040 年には無居住化する、住む人がいなくなる、かつ、そのプロセスの中では既に高齢者が 50% を超えている。限界集落の定義は高齢者比率が 50%以上ということなので、成り行きまかせでは、限界集落、さらにその先には無居住化の状況が見えてくる。そこで、すぐに地域をたたむのではないというご提案がありましたが、住んでいる人が支えあいながら住み続けてもらえるために、地域包括ケアを地域の中にテコ入れして、東部、中部、南部のように地域包括ケアシステムを取り入れていこうというご提案です。そう考えると、資料 49 ページのように従前の伊賀、青山の地域拠点ほさらに地域包括ケアの拠点になるので、二重の拠点性があるような地区にしていこうという事務局のご提案です。この拠点は地域に住み続けられるように、医療、福祉サービスをしていく拠点になります。さらに高森の家の提案がありましたが、限界集落にひとりで高齢者が住むのはつらいという状況があると、高齢者住宅を拠点に作って選択的に住み替えていこうという話です。3つの拠点を地域包括ケアでカバーすることによって、高齢化、人口減少の状況の中で、住み続けられる地域をつくっていこうという守りの提案になっていますが、これについてご意見がありましたらお願いします。

(委員) 現在の伊賀市の人口と、資料 14 ページの人口推計はリンクしているのか。

(事務局) 資料 14 ページの人口推計の基準年は 2015 年です。住民基本台帳人口は、現在約 9 万人強です。

(委員) 現在のマスタープランは、9 万人、10 万人を見込んだプランになっていると思う。ところがかなり人口減少が進み非常事態であると思うので、10 年スパンで考える問題ではない。観光や工業も大事だが住んでいる人がいいと思うまちにしなければいけないと思う。

(委員) 2020 年の国勢調査を実施しているので、載せられるのであればここに寄せたいと思う。住民基本台帳上は現在約 9 万人いますが、国勢調査の結果は少し違う数値になる。国勢調査と住民基本台帳の人口は少し違うというところを理解していただければと思う。

(委員長) 人口減少を食い止めるために、いい方法はありますか。

(委員) 提案があるが、伊賀に転入された方に対して、その理由を集めることができたなら大きなヒントになるのではないか。

(委員) 旧庁舎が残っていて中途半端な状況である。それを活用しないと伊賀市としても問題である。私としては観光も大事だが、市民の憩いの場、勉強の場など、民間の力を借りて誇りを持てる建物に仕上げしてほしい。若者視線も大事だと思うので、観光だけにこだわらずに、民間を活用して誇れるものにバージョンア

ップしてほしい。早く活用することによって若者が喜ぶと思う。

(委員長) 住んでもいい、遊びに来てもいいという都市の魅力を高めるということですね。空き家はほっておくと悪い物ですが、有効活用するとお宝なのです。空き家の活用は行政仕事ではできない。空き家を特定空家として壊すことはできるが、有効活用は行政は不得意です。そこで、地域や民間が登場する。資料 34 ページに関係人口とあるが、昔は交流人口ということで、定住人口が減っても遊びに来ていただく人がいてお金を落としてもらい元気を出すという考え方であったが、最近では、遊びに来てなくても来て活動してもらおうという関係人口を増やす、要するにファンを増やすということです。ファンを増やすためには、伊賀が魅力を持っていなければいけない。昔、阪神淡路大震災があった時に、神戸は大打撃を受けました。若い人達がボランティアをしていましたが、これは神戸に魅力があるからではないかと思つづく感じました。住んでいい、観光に来てもいい、活動にきてもいいという魅力づくりをいかにできるかということが大切だと思います。そのネタに空き家の有効活用があるのではないかと思います。このようにファンづくりを行うような、ソフトの取組をこの中に書くと、伊賀流都市マスになるのではないかと思います。都市計画法が期待するハードな部分だけの都市マスではなく、ソフトな取組みも視野に入れた、自治協が支える都市マスというのが、伊賀流ではないかと思います。このような章を書き加えていただくと、有意義な都市マスになると思います。そのためには、本日の議論や資料をネタに、地域で議論していただいて次の原案づくりに進めていければと思います。

3. その他

(事務局) 熱心にご議論いただきまして、ありがとうございます。11月の半ばを目途に、本日の概要をまとめた資料、及び聞き取りに関する資料を作成させていただきたいと思いますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。次回の委員会についてですが、各自治協や団体からの意見を取りまとめ、庁内調整を行った後、2月末頃の開催予定をしております。詳細は改めてお知らせしますので宜しくお願い致します。それでは、これをもちまして、第3回伊賀市都市マスタープラン策定委員会を閉会致します。ご出席いただき誠にありがとうございました。

午後 15時30分閉会